



製錬



生活
文化

8
まいん

たかばしせいれんしょあと 高橋精錬所跡



たかばし 高橋付近の溶鉱炉 (明治20年代) 別子銅山記念館所蔵

たかばしせいれん 高橋製錬所

は、ダイヤモンド水と呼ばれるわき水の対岸から足谷川上流辺りまで続く石垣の一角に建設されました。

明治12年(1899)の春に、別子銅山最初の洋式製錬所として操業を始めました。

海拔一千メートルの
空中工業地帯



たかばし 高橋の病院へ通じていた暗渠跡

しかし、溶鉱炉の不備により和式に転換しました。

明治24年頃から洋式製錬を再開しました。銅製錬の近代化は、採鉱高の急増に伴う鉱石処理能力の増大と燃費の節約を目標としました。

そのため溶鉱炉の改造や
輻から送風機への転換、木炭からコークス燃料への転換などが行われました。

明治32年の鉱石処理能力は、明治5年の50倍にも達していました。



あしたに 足谷川に流れたカラミ跡



別子大水害で被害を受けた高橋製錬所付近 明治32年(1899)撮影 別子銅山記念館所蔵

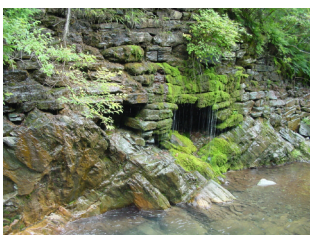


めったまち 目出度町の住友病院 明治23年(1890)撮影 別子銅山記念館所蔵

ここで、製錬された粗銅は、立川精銅場や後には新居浜惣開製錬所に運ばれ、型銅(製品)にされました。

新居浜地方の煙害問題発生の影響で拡張中であつた高橋製錬所は、明治32年(1899)の別子大水害で壊滅的な被害を受け、その後再建されることはありませんでした。

今では、当時のカラミ(製錬で、銅を採った残りカス)や石垣、そして暗渠が残されるだけとなり、当時の面影は緑の中に沈んでしまつたままです。



これな〜んだ?

これは何だと思いませんか?

これは暗渠の少しさがあった川治いにあります。

(ヒント・水)

答えは、裏にあります。

